



GOOD GRIND FARM

前畑 彰洋

MAEHATA AKIHIRO

1993年 柏崎市出身
2019年 市内谷根でGOOD GRIND FARMを
オープン

谷根川の美しい水の流れと米山などの山々に囲まれた緑豊かな土地で自然農法の野菜を育て、米山当帰の栽培に挑んでいる前畑彰洋さん。

拠点となる、GOOD GRIND FARM (グッドグラインドファーム) にはスケートボードパークを併設し、谷根で採れた米や野菜の販売、オリジナルTシャツや雑貨などの販売、オリジナルデザインのシルクスクリーン印刷やタイダイ (絞り染め) 体験などを行っている。

明治大学農学部で微生物や遺伝子、バイオ技術などを学んでいた前畑さんが研究テーマに選んだのは地元で古くから自生する米山当帰。研究のために谷根を訪れ、地元農家の池田寿一さんから当帰について教えてもらううちに谷根の豊かな自然に惹かれ、大学院で学んだ自然農法を試したいと2018年に移り住んだ。

現在、前畑さんが栽培用に借りている畑は約50アール。その内の10アールほどを当帰栽培に充てている。

畑では化学肥料や農薬、家畜糞尿を使用せず、耕し過ぎずに雑草を生かした草生栽培で野菜などを栽培。植物の根を土の中に残すことで微生物が増え、丈

夫でおいしい野菜が育つことを実践している。栽培作物は野菜やハーブなど約50種類。パッケージにもこだわった谷根米、在来種の谷根なすや谷根の赤ニンニクなど、谷根ブランドの展開も視野に入れている。

柏崎地域では昔から米山登山の折りに山頂付近で当帰を買い求め、魔除けや虫除け、薬など大切に利用されてきたが、近年徐々に自生の数が減っていることに危機感も高まり、当帰栽培の取り組みを始めた前畑さんは地元にとって大切な存在となっている。

米山当帰は現在、共同研究機関にて遺伝子解析と成分分析が進められ、それによってどんな情報が得られるのか、結果が待たれるところである。

米山当帰は種を植え、成長して花が咲き再び種ができるまで3年。根の部分は医薬品に該当するため食品としての製造や販売は行う事ができない。ようやく昨年からは販売できるようになった当帰は、2年目の少し大きくなった地上部を刈り取り、風習としての魔除けや虫除けに利用する他、ハーブとしての加工用など、今後の利用法や販路拡大も検討しているという。

移住から3年。前畑さんの活動や仕事の支えになっているのは家族の存在だ。谷根の美しい自然の中で草刈りに汗を流す前畑さん。収穫の秋はすぐそこに待っている。



facebook

お問い合わせ

GOOD GRIND FARM

柏崎市谷根3186-4

☒ goodgrindfarm@gmail.com

営業 毎週土・日 (13時~18時)



ホームページ